

漢字・四字熟語を覚えよう!

同音異義語・同訓異字

音が同じで意味が異なる語を「同音異義語」、訓が同じで意味が異なる字を「同訓異字」と言っよ。



次の傍線部を漢字で表したときに使われるものを下の「」のうちからそれぞれ一つずつ選び、○で囲もう。

- ① オウフク 意味…ある道筋を行ってまた戻ること。 【複・復・腹】
② ヨウギ 意味…罪をおかしたのではないかという疑い。 【溶・用・容】
③ オコす 意味…物事を新たに始めたり、活動をさかんにしたりする。 【興・起・怒】

四字熟語

次の四字熟語の意味を国語辞典で調べて書こう。

- ④ 異口同音

- ⑤ 大器晩成

Blank boxes for writing answers to questions 4 and 5.

答え

- ① 復 ② 容 ③ 興 ④ 例 多くの人が口をそろえて同じことを言うこと。
⑤ (例) すぐれた人物は若いうちが目立たなくても、あとになって大成するということ。



今日のゴール

日常生活で使用する漢字や語いを覚えよう!

取り組み日

月 日

取り組み時間



基礎 チェックができた! 解いてみよう
応用 チャレンジしてみよう

問一 次の傍線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。

- ① この二つの問題はヒヨウリ一体だ。
② 係のユウドウに従って移動する。
③ これが動かぬシヨウコだ。
④ 二人の間にはシンライ関係がある。
⑤ イチレンの事件の犯人が捕まる。
⑥ ヒヨウシキを立てて注意を促す。
⑦ 金属を特殊な装置でセツダンした。
⑧ 失敗してドウヨウする。

問二 次の傍線部のカタカナに当たる漢字を下の「」のうちからそれぞれ一つずつ選び、○で囲みなさい。

- ① 前代未モン 【門・間・聞】
② 五里ム中 【霧・夢・無】
③ 波瀾バン丈 【板・万・盤】



# ことわざ・慣用句を覚えよう!

**ことわざ** 教訓的な内容を短いことばで言い表したものを。

次の意味に合うことわざになるように、□に当てはまる漢字を下の【】のうちからそれぞれ一つずつ選んで書こう。

① 一度してしまったことは取り返しがつかないことのとえ。

覆水ふくすい □ に返らず

【川・海・盆・皿】

② 幼いころの性質は年をとっても変わらないことのとえ。

三つ子の □ 百まで

【心・魂・気・夢】

**慣用句** 二つ以上の語が組み合わさり、特別な意味を表すもの。

次の意味を表す慣用句として正しいものをア〜エのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号に○を付けよう。

③ 物事の進行をより早める。

ア 拍車をかける    イ 口火を切る

ウ お鉢が回る    エ 浮き足立つ

④ 非常に感心する。

ア 歯が浮く    イ 日の目を見る

ウ 舌を巻く    エ 一旗ひとぼたあげる

**基礎** 問三 次のことわざの意味を国語辞典で調べて書きなさい。

① 背水はいすいの陣

② 習うより慣れよ

③ 寝耳ねみみに水

④ 棚たなからぼたもち

**応用** 問四

次の意味を表す慣用句として正しいものをア〜エのうちからそれぞれ一つずつ選び、線で結びなさい。

① 自分が直接そのことをする。

・ア 肩を並べる

② 過ぎたことをなかつたことにして、こだわらない。

・イ 腹を割る

③ 同じくらい力をもつて張り合う。

・ウ 水に流す

④ 思っていることを隠さずに言う。

・エ 手をくだ下す





#### 抽象語と、その意味を覚えよう！

##### 抽象語

次の文の□に当てはまる語句として最も適当なものを、ア～エのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号に○を付けよう。

① □にめいているが、競争相手ができてからのほうが、社の売り上げは伸びたのだった。

- ア 反転    イ 逆転
- ウ 逆説    エ 反対

①は普通なら売り上げが減りそうところが増えた、ということだね。



② 彼は新しい手法を料理に取り入れたが、そのせいで周囲からは扱いされた。

- ア 先端    イ 異端
- ウ 極端    エ 末端

次の語句の対義語として正しいほうを、ア・イのうちからそれぞれ選び、記号に○を付けよう。

- ③ 非凡    ア 天才    イ 平凡
- ④ 画一    ア 多様    イ 多才
- ⑤ 需要    ア 供給    イ 提供

③の「非凡」は「すばぬけてすぐれた」という意味だよ。



答え ①ウ ②イ ③イ ④ア ⑤ア



**今日のゴール**  
 抽象語の意味と、その対義語を覚えよう！  
 敬語の種類と、使う場面を正しく理解しよう！

取り組み日  
 月 日  
 取り組み時間  
 分 / 20分  
 基礎 チェックができた  
 応用 解いてみよう  
 応用 チャレンジしてみよう



**問一** 次の傍線部の語句の意味として正しいほうを、ア・イのうちからそれぞれ選び、記号に○を付けなさい。

① あやふやかな俗説を信じ込んだ。  
 ア 世間一般に言い伝えられているが、はっきりした根拠のない話。

イ 世間的な利益や名誉だけを求めるような人について述べられた話。

② さまざまなレトリックを凝らして文章を書く。  
 ア 言葉で効果的に表現するための技法。  
 イ 人をだますためのしかけ。

③ 雄大な自然を前に、人は畏敬の念を抱く。  
 ア 偉大なものをおそれうやまうこと。  
 イ こわいと思ひ、恐怖心を抱くこと。

④ 試験で思うような結果が出ず、落胆する。  
 ア 涙を流すこと。  
 イ 非常にがっかりして元気がなくなること。



**問二** 次の語句の対義語を後の□から選んで、漢字二字に直して書きなさい。

- ① 過密    □    □
- ② 軽率    □    □
- ③ 顕在    □    □

センザイ・カソ・シンチヨウ



# 😊 尊敬語と謙譲語について理解しよう！

**尊敬語**  
動作主に対する敬意を表すのが「尊敬語」、動作の受け手に対する敬意を表すのが「謙譲語」。



次の文の敬語の使い方が正しければ○を、間違っていれば×を□に書こう。

- ① 先生がバスにお乗りになった。
- ② 先生はあの寺では写真をお撮りしましたか。
- ③ 私は明日の朝、ご出発になります。

「お〜になる」「〜になる」を使う表現は尊敬を表し、「お〜する」を使う表現は謙譲を表すよ。



## 謙譲語

次の各文の傍線部の言葉を敬語に直したものととして正しいほうを、ア・イのうちからそれぞれ選び、記号に○を付けよう。

- ④ クラスのみんなで先生のお宅へ行く。  
【ア いらっしやる イ うかがう】
- ⑤ 私が公園の中を案内します。  
【ア ご案内いたします イ ご案内なさいます】
- ⑥ お客様のお皿は私が取ります。  
【ア お取りします イ お取りになります】

答え ①○ ②× ③×(お撮りになりましたか)が正しい。 ④×(出発いたします)が正しい。 ⑤イ ⑥ア



## 😊 問三

次の各文のうち、傍線部の敬語の使い方が正しいものには解答欄の上部に○を書き、間違っているものは、正しい敬語を使った表現に書き直さない。

①～③はどれも、客や目上の人と話している場面だね。



- ① バスが到着しましたら、すぐにご乗車になってください。
- ② 私は、みなさんのあとで召し上がりします。
- ③ 旅行のご無事をお祈りしています。

## 😬 問四

次の敬語を使う場面として最も適当なものを、ア・ウのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号に○を付けなさい。

- ① 「ご覧になってください。」  
ア 母親が娘に勧める場面  
イ 店員が客に勧める場面  
ウ 夫が妻に勧める場面
- ② 「母が申しております。」  
ア 妹が姉に母親のことを伝える場面  
イ 生徒が先生に母親のことを伝える場面  
ウ 父親が娘に母親のことを伝える場面

目上の人や客と話すときは、自分だけでなく、自分の身内の動作についても、謙譲語を使うよ。



# 5 古文



古典常識、古文単語の意味と、用言の知識を身につけよう！

## 古典常識

旧暦の月名を覚えよう。後の(一)に三月・十二月の月名の読みをそれぞれ歴史的仮名遣いで書こう。

春	睦月 <small>むつづき</small> 如月 <small>にげいづき</small> 弥生 <small>やよいづき</small>	一月 二月 三月
夏	卯月 <small>うづき</small> 皐月 <small>ささづき</small> 水無月 <small>みなづき</small>	四月 五月 六月
秋	文月 <small>ふみづき</small> 葉月 <small>はづき</small> 長月 <small>ながつき</small>	七月 八月 九月
冬	神無月 <small>かんなづき</small> 霜月 <small>しもづき</small> 師走 <small>しゅうそう</small>	十月 十一月 十二月

- ① 弥生 ( )
- ② 師走 ( )

## 単語の知識

次の各文の傍線部の意味を、辞書などで調べて書こう。

③ 裸はだかにて史居しりたれば、盗人ぬすびと、「あさまし」と思ひて、「こはいかに」と問へば……。

④ さ候さこうへばこそ、世よにありがたきものには侍はべりけれ。

- 答え ① やよひ ② しはす ③ (例)これはどうしたことか ④ (例)めったにない



今日のゴール  
旧暦の月名古文単語の意味・動詞の活用を身につけよう！  
古文を読めるようにしよう！

取り組み日  
月 日

取り組み時間  
分 20分

基礎  
チェックができた  
解いてみよう

応用  
チャレンジしてみよう

基礎 問一 次の月は現代では何月を指しているか。漢数字で答えなさい。

- ① 皐月 ( ) 月
- ② 師走 ( ) 月

応用 問二 次の傍線部の動詞の活用の種類は、何行何活用か答えなさい。

① ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあら  
ず。

行 ( ) 活用

② 木の葉の落つるも、まづ落ちて芽ぐむにあらず。

行 ( ) 活用

③ げに今日のけしきにいとよう合ひたるを、……。

行 ( ) 活用

④ いかにしてこのかぐや姫をえてしがな、……。

行 ( ) 活用

動詞の活用の種類は、「あかさたな…」のどれに当たるかという「行」と、四段・上二段・下二段などの「活用」からなるよ。

動詞の活用を見分けるときは、まず「ズ」を付けて見分けよう。たとえば「絶え」なら「絶え+ズ」で「え」の部分か「二段の音なので、下一段か下二段になるよ。」



ここまでで 10分



# 現代語訳を参考にしながら、古文を読み取ろう！

まずは文章を読んでみよう！

八つになりし年、父に問ひていはく、「**①** 仏はいかなるものにか候ふらん」と言ふ。父がいはく、「**②** 仏には人のなりたるなり」と。また問ふ、「人は何として仏にはなり候ふやらん」と。父また、「**③** 仏の教へによりてなるなり」と答ふ。また問ふ、「教へ候ひける仏をば、何が教へ候ひける」と。また答ふ、「それもまた、先の仏の教へによりてなり給ふなり」と。また問ふ、「その教へ始め候ひける第一の仏は、いかなる仏にか候ひける」と言ふとき、父、「空よりや降りけん、土よりやわきけん」と言ひて、笑ふ。

「問ひつめられて、え答へずなり侍りつ」と、諸人に語りて興じき。

〔徒然草〕による

## 【現代語訳】

(私が)八歳になった年、父に尋ねて言うには、「**①**。」と言う。父が(答えて)言うには、「**②**とは人がなったものだ。」と。(そこで私が)また問うには、「人はどのようなようにして仏になるのですか。」と。父はまた、「**③**の教えによって(仏)なるのだ。」と答える。(そこで)また(私は)問うて、「(その)教えました仏を、何者が教えたのですか。」と。また(父が)答えて、「それもまた、前の仏の教えによって(仏と)おなりになるのだ。」と。(そこで私は)また尋ねて、「その教え始めました最初の仏は、どのような仏だったのでございましょうか。」と言うとき、父は、「空から降ってきたのであろうか、(それとも)土からわいてきたのであろうか。」と言って、笑う。

(後日、**③**は「(息子に)問いつめられて、**②**。」と、人々に語っておもしろがった。

問三 上の文章を読んで、後の問いに答えなさい。



基礎 (1) 傍線部①「仏はいかなるものにか候ふらん」の現代語訳として最も適当なものを、ア～エのうちから一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 仏とはどんなものでもございましょうか
- イ 仏とはいついついらしやるのでございましょうか
- ウ 仏とはなぜいらっしやるのでございましょうか
- エ 仏とは何人くらいいらっしやるのでございましょうか

「いかなる」は「どんな」という意味。「か」は疑問を表し、「らん」は推量を表すよ。



応用 (2) 傍線部②「え答へずなり侍りつ」を現代語訳しなさい。

「えいず」は「へできない」という意味だよ。「侍り」は「ます」という丁寧を表す補助動詞。「つ」は完了の助動詞なので、この意味をおさえて訳す。



応用 (3) 傍線部③「興じき」の主語を、本文中の言葉で答えなさい。

傍線部③の前の「語りて」と同じ人が主語だよ。この人が問いつめられて、と言っていることから考えよう。



ここまでに10分